



第2回アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合 2011 の開催について（お知らせ）

開催概要：アムール川流域とオホーツク海という国境をまたぐ自然環境を持続可能な状態で利用すべく、日本、中国、ロシア、モンゴルの研究者が一堂に介し、現状と課題、その解決について議論します。第2回目の今回は、福島第一原発事故を受けて、海洋・陸域環境への影響を第一線で活躍する日露の研究者が報告します。

開催趣旨：

世界でも最高位の生物生産性と生物多様性に恵まれた海、オホーツク海は、近年の地球温暖化やアムール川流域の急速な開発によって、大きく影響を受けようとしています。この問題を未然に防ぐべく、オホーツク海を領有する日本とロシアはもちろん、アムール川を通じてオホーツク海に影響を与える中国とモンゴルを加えた多国間学術ネットワーク“アムール・オホーツクコンソーシアム”が 2009 年 11 月に設立されました。本企画は、この組織の第2回目の国際会議です。市民と学生にも参加してもらい、越境環境という地域の共有財産をいかにして保全し、未来世代へと引き継ぐかを学際的な立場から議論することを目的としています。

日程： 2011 年 11 月 5 日（土）～11 月 6 日（日） 開始時刻 10：00/終了時刻 18：00

場所： 北海道大学学術交流会館 第一会議室（札幌市北区北 8 西 5） ※札幌駅北口より徒歩 10 分

主催： 北海道大学低温科学研究所，北海道大学スラブ研究センター，北見工業大学 未利用エネルギー研究センター，総合地球環境学研究所

参加対象・募集人数： 120 名

参加費： 無料

言語： ロシア語・中国語・日本語（同時通訳あり）

プログラム： 別添を参照願います。

申し込み期間・方法：

氏名（ふりがな），Eメールアドレス，北大関係者もしくはそれ以外の別，学生もしくは一般の別，ご住所を明記の上，下記宛，メールまたは FAX にて 10 月 31 日（月）までにお申し込み下さい。

E-mail: ao-consortium@pop.lowtem.hokudai.ac.jp

FAX: 011-706-7142

お問い合わせ先

所属・職・氏名：北海道大学低温科学研究所・アムールオホーツクコンソーシアム担当・篠原琴乃

TEL: 011-706-7664 FAX: 011-706-7142 E-mail: ao-consortium@pop.lowtem.hokudai.ac.jp

Hokkaido University Sustainability Weeks 2011

環オホーツク地域の 環境データ共有化に むけて

Towards the sharing of environmental
data in the Pan Okhotsk region

The 2nd International Meeting of Amur-Okhotsk Consortium 2011
第二回アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合

2011
11/5・6
SAT SUN

参加無料 事前申込みが必要です
(先着120名)

日本語 中国語 ロシア語
(同時通訳あり)

北海道大学 学術交流会館 第一会議室
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目 TEL:011-706-2141(会館事務室)

プログラム

11月5日(土) 10:00~18:00

- セッション1 アムール川流域の環境とその変化
- セッション2 オホーツク海の環境とその変化
- セッション3 福島第一原発事故とそ海洋環境への影響

11月6日(日) 9:00~18:00

- セッション4 アムール・オホーツク地域の社会と経済
- セッション5 環オホーツク地域の環境保全に向けた国際連携
- 総合討論 環オホーツク地域の環境データ共有化にむけて

主催 北海道大学 低温科学研究所
北海道大学 スラブ研究センター
北見工業大学 未利用エネルギー研究センター
総合地球環境学研究所

共催 北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」
国土交通省北海道開発局
道総研 環境科学研究センター
北海道漁業環境保全対策本部

協賛 三井物産環境基金

参加申込み・お問い合わせ先
北海道大学 低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター
アムール・オホーツクコンソーシアム事務局
電話: 011-706-7664 Fax: 011-706-7142
E-mail: ao-consortium@pop.lowtem.hokudai.ac.jp
URL: <http://amurokhotsk.com/>

北海道大学サステナビリティウィーク 2011

第2回アムール・オホーツクコンソーシアム国際会合 2011

～環オホーツク地域の環境データ共有化にむけて～

日時:平成 23 年 11 月 5 日(土)～6 日(日)

会場:北海道大学学術交流会館 第一会議室(札幌市)

主催:

北海道大学 低温科学研究所

北海道大学 スラブ研究センター

北見工業大学 未利用エネルギー研究センター

総合地球環境学研究所

共催:

北海道大学グローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成」

国土交通省北海道開発局

道総研 環境科学研究センター

北海道漁業環境保全対策本部

協賛:

三井物産環境基金

使用言語:ロシア語・中国語・日本語(同時通訳あり)

概要:

世界でも最高位の生物生産性と生物多様性に恵まれた海、オホーツク海は、近年の地球温暖化やアムール川流域の急速な開発によって、大きく影響を受けようとしています。この問題を未然に防ぐべく、オホーツク海を領有する日本とロシアはもちろん、アムール川を通じてオホーツク海に影響を与える中国とモンゴルを加えた多国間学術ネットワーク”アムール・オホーツクコンソーシアム”が 2009 年 11 月に設立されました。本企画は、この組織の第二回目の国際会議です。市民と学生にも参加してもらい、越境環境という地域の共有財産をいかにして保全し、未来世代へと引き継ぐかを学際的な立場から議論することを目的としています。

セッション1:アムール川流域の環境とその変化

セッション2:オホーツク海の環境とその変化

セッション3:福島第一原発事故とその海洋環境への影響

セッション4:アムール・オホーツク地域の社会と経済

セッション5:環オホーツク地域の環境保全に向けた国際連携

総合討論: 環オホーツク地域の環境データ共有化にむけて

実行委員会:

[委員長]

江淵 直人 北海道大学低温科学研究所・教授 環オホーツク観測研究センター長

[実行委員]

白岩 孝行 北海道大学低温科学研究所・准教授

田畑 伸一郎 北海道大学スラブ研究センター・教授

岩下 明裕 北海道大学スラブ研究センター・教授

花松 泰倫 北海道大学スラブ研究センター・学術研究員

庄子 仁 北見工業大学 未利用エネルギー研究センター・教授

谷口 真人 総合地球環境学研究所・教授

阿部 健一 総合地球環境学研究所・教授

アイスン ウヤル 総合地球環境学研究所・助教

土肥 諭志 国土交通省北海道開発局・社会開発係長

鮎田 名穂子 国土交通省北海道開発局・開発専門職

福山 龍次 北海道立総合研究機構 環境・地質本部 北海道環境科学研究センター・研究主幹

野口 泉 北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター・研究主幹

大西 健夫 岐阜大学応用生物科学部・助教

石川 清 北海道漁業環境保全対策本部・事務局長

藤谷 直樹 北海道漁業環境保全対策本部・事務局職員

篠原 琴乃 北海道大学低温科学研究所・事務員

プログラム

2011年11月5日(土)-----

10:00-10:10 開会の辞 本堂 武夫(北海道大学 理事・副学長)

10:10-10:15 コンソーシアム代表挨拶 江淵 直人(北海道大学低温科学研究所)

10:15-10:25 趣旨説明 白岩 孝行(北海道大学低温科学研究所)

セッション1: アムール川流域の環境とその変化

座長: 長尾 誠也(金沢大学環日本海域環境研究センター)

10:25-10:50 イリーナ・デュギナ(ロシア連邦水文気象・環境監視センター)
「アムール川流域ロシア領における連邦政府による水文・水文化学モニタリング」10:50-11:15 オユンバートル・ダンバラジャー(モンゴル水文気象局)
「モンゴル国ヘルレン川流域における水資源・水文観測・社会経済ならびに環境問題の現状」11:15-11:40 ウラジミール・シャーモフ(ロシア科学アカデミー極東支部・太平洋地理学研究所)
「アムール川流域における近年の気候変化と河川起源鉄の挙動に及ぼす影響」11:40-12:05 リュボフ・コンドラチェバ(ロシア科学アカデミー極東支部・水生生態学研究所)
「河川結氷期におけるアムール川の汚染と生態学的危険性の諸要因」

- 12:05-12:30 **陳 欣・黄 斌** (中国科学院・瀋陽応用生態学研究所)
「三江平原の自然・耕作湿地における水と栄養塩の生態学的共通管理」
- 12:30-12:55 **大西 健夫** (岐阜大学応用生物科学部)
「アムール川流域における溶存鉄の生成と輸送のメカニズム-プロジェクトでどこまでわかったのか?」
- 12:55-14:30 昼食

セッション2: オホーツク海の環境とその変化

座長: **庄子 仁** (北見工業大学 未利用エネルギー研究センター)

- 14:30-14:55 **西岡 純** (北海道大学低温科学研究所), **ユーリ N.・ボルコフ**, **アレクセイ・シェルビーニン** (ロシア極東水文気象研究所)
「海水がオホーツク海の生物地球化学的過程に果たす役割」
- 14:55-15:20 **イゴール・ミネルビン** (サハリン州立大学)
「オイル・ガスプロジェクトに対するオホーツク海の海水モニタリング」
- 15:20-15:45 **エフゲニー・カラシェフ** (ロシア極東水文気象研究所)
「極東海域の生態学的状況に関するモニタリング」
- 15:45-16:15 休憩

セッション3: 福島第一原発事故とその海洋環境への影響

座長: **阿部 健一** (総合地球環境学研究所)

- 16:15-16:40 **池田 元美** (北海道大学 名誉教授)
「東日本大震災による汚染を解明し解決するため海洋科学専門家が進める協同」
- 16:40-17:05 **福山 龍次** (道総研 環境科学研究センター)
「北海道周辺海域の放射性物質のモニタリング結果について」
- 17:05-17:30 **保高 徹生** (産業技術総合研究所)
「陸域における放射性物質の状況、挙動、そして対策の課題」
- 17:30-17:55 **松田 裕之** (横浜国立大学環境情報研究院)
「水産資源・野生生物への影響」
- 19:30-21:30 懇親会 (アスペンホテル)

2011年11月6日(日)-----

セッション4: アムール・オホーツク地域の社会と経済

座長: **楊 宗興** (東京農工大学大学院農学研究院)

- 09:00-09:25 **ヴィクトール・エルモーション** (ロシア科学アカデミー極東支部・太平洋地理学研究所)

「新プロジェクト『アムール川流域における持続可能な自然管理プログラムのための環境基準と限界』における課題と期待される成果」

- 09:25-09:50 **ナターリア・ミシナ** (ロシア科学アカデミー極東支部・太平洋地理学研究所)
「アムール川流域ロシア領における環境問題: 過去 10 年間の傾向と今後の見通し」
- 09:50-10:15 **張 柏** (中国科学院・長春東北地理農業生態学研究所)
「中国三江平原における土地利用研究」
- 10:15-10:35 休憩
- 10:35-11:00 **簗 志剛** (黒竜江省社会科学院東北アジア研究所)
「非伝統安全のリスクに直面する北東アジア諸国の喫緊的な課題に関して-生態安全と環境保全という視点からの情報享受に関して」
- 11:00-11:25 **封 安全** (黒竜江省社会科学院東北アジア研究所)
「ロシア極東地域の森林開発と利用」
- 11:25-11:50 **ピョートル・バクラノフ** (ロシア科学アカデミー極東支部・太平洋地理学研究所)
「アムール川集水域における自然資源管理に関する新投資プロジェクト」
- 11:50-12:15 **吉田 進** (環日本海経済研究所 名誉理事長)
「北東アジアにおける経済協力の最近の特長」
- 12:15-13:30 昼食
- セッション5: 環オホーツク地域の環境保全に向けた国際連携**
座長: **田畑 伸一郎** (北海道大学スラブ研究センター)
- 13:30-13:55 **ケン シク・トゥ** (サハリン州立大学)
「アムール・オホーツク地域の持続可能な発展に向けた協力」
- 13:55-14:20 **石川 清** (北海道漁業環境保全対策本部)
「サハリン・プロジェクトと北海道漁業」
- 14:20-14:45 **エリザベス・ウィシュニック** (モントクレア州立大学・コロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所)
「アムール川流域は危険に直面しているか? 松花江における化学物質の流出の結末と中露協力に対する期待」
- 14:45-15:10 **花松 泰倫** (北海道大学スラブ研究センター)
「他地域における天然共有資源の保護に関する地域環境協力と条約の検討」
- 15:10-15:40 休憩

総合討論: 環オホーツク地域の環境データ共有化にむけて
座長: **白岩 孝行** (北海道大学低温科学研究所)

- 15:40-15:55 **立花 義裕** (三重大学大学院 生物資源学研究科)
「我如何にしてロシア極東水文気象環境監視局と科学的連携を構築せしか」
- 15:55-16:10 **三寺 史夫** (北海道大学低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター)
「オホーツク海データの FERHRI との共同解析について」
- 16:10-17:40 総合討論
- 17:40-18:00 各国幹事からの挨拶
ロシア: **ピョートル・バクラノフ** (ロシア科学アカデミー極東支部・太平洋地理学研究所)
中国: **董 志剛** (黒竜江省社会科学院東北アジア研究所)
モンゴル: **オユンバートル・ダンバラジャー** (モンゴル水文気象局)
日本: **江淵 直人** (北海道大学低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター)